

協働パイロット事業（H27）企画提案書

団体名 さくらの架け橋会

1 事業の名称

障害者が主役の防災訓練

2 事業の概要（市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえて記載してください）

桜の架け橋会は二人の視覚障害（全盲）音楽演奏者と発達障害の高校生達及びその家族、鬱からの復帰組、脳腫瘍による視覚、聴覚障害、緑内障進行など様々な病気障害と闘うメンバー及びその家族、支援者で構成されています。

一緒に活動を始めたころはお客様だった二人の全盲ミュージシャンはいつの間にか私達にとっては単に目の見えない仲間。一緒に重い音楽機材を運び一緒に演奏をそして二人乗りのタンデム自転車でサイクリングを楽しむ特別ではないメンバーの一人です。しかし、彼らには凄い能力があります。暗闇が日常である事、半端でない記憶力そして音の捉え方。

このとびぬけた能力を災害時に活用できないだろうか・・・
そんなことから始まった「共助」への提案です。

・いざという時の為に障害のある人達も地域防災訓練に参加をしてほしいのだが、実際に参加する人が少ない。それならば障害者が進んで参加したくなるような防災訓練を企画すればいい。しかし障害者と言っても様々な症状がある。今回は視覚障害者を対象にした障害者との「共助」を念頭に置いた防災訓練を企画・実施したい。

見えない事を障害としてとらえるのではなく個性特徴と考え、彼らが主役となる防災訓練を行う事で参加意欲が増すようにする。

・この提案は視覚障害の二人が言い出した事なのだが、災害時の停電状態の暗闇は視覚障害者にとっては日常と同じであり、暗闇の中を非難するのに彼らの能力を活用する事が出来るはずである。

明るいところでは目が見える人が「助ける人」ところが暗闇では立場が逆転。優れていると思われていた健常者が障害者に助けられることになる。実際に神戸の地震では、視覚障害の友人が家族を暗闇の中から避難させたと聞く。

役に立つ、必要とされていると感じれば参加意欲も増す。

・まずは障害者が特別のものではなく、地域に住む一人の人間として理解してもらうためのコミュにケーションを深める取り組みが大切である。そのための講演会・ワークショップ等を開催する。暗闇の中でみんなで楽しく体験し、遊んでいるうちに、「助ける」「助けられる」という立場を越えてフラットな関係を築くことが出来るようになるという。まずはわかりあえるための体験。

障害者の多くは親や家族に大きな負担をかけているとの思いから罪悪感を感じ「迷惑をかける存在」と考えている人も多い。それが暗闇災害訓練では彼らは周りから頼られる存在。人の役に立つと実感できるのです。視覚障害の人達が自信を持つ事が出来る貴重な体験となるでしょう。

- ・また、これまでの音楽活動をつうじて交流のある清水国際ブラスバンド部生徒の参加協力を得て地域と高校生と障害者を結びつけていきたい。

- ・第2段階として暗闇防災訓練を実施。

- ・第3段は暗闇防災訓練をもとにシンポジウム、意見交換会を行う。

専門家、当事者、体験者、行政、地域住民等の意見を参考に次へのステップの為の課題を見つける。他地域での開催、12月の地域での防災訓練に組み込む事が出来るのか、どんな障害の方達と行うか、訓練の内容など次年度へつなげるための問題提起。

- ・暗闇を想定しての災害訓練は、地域コミュニティーの新しい形になる。

3 協働して事業を行う際、貴団体の担う役割と静岡市に担って欲しい役割

当会がはたす役割

- ◆実施企画、設営運営。
- ◆実行委員会の実施
- ◆講師依頼、(シンポジウムメンバー・暗闇体験の講師等)
- ◆会場の決定(条件に合う会場であるかの確認)
- ◆報告書の作成
- ◆告知(関係者への告知、メディア等への取材依頼)

桜の架け橋は26年度家康公400年祭り市民参画事業に応募し「家康けんこう体操」の音楽CDと体操を作りました。行政から認められているという事で演奏機会なども増え、皆様のご理解も得やすく改めて、「協働共助」の必要性を感じました。そこで

行政に望む事

地域、視覚障害者、行政の理解が必要となります。その橋渡しをお願いしたい。

- ◆地域自治体との調整。
- ◆市内視覚障害者団体との連絡調整。
- ◆この事業に参加協力してくれる視覚障害者団体を紹介してほしい。
- ◆地区障害者の状況把握
- ◆会場手配等(第2回の暗闇会場や避難訓練会場)
- ◆他課、行政との調整。
- ◆告知補助 関係各位へのイベント開催告知
- ◆ワークショップ、暗闇避難訓練、シンポジウムへの参加
- ◆実行委員会への参加 等

4 事業計画・実施スケジュール

第1回	9月	講演会・ワークショップの実施	対象70名～100名
		会場：清水は一とびあ6階にて 視覚障害を理解する為の体験暗闇ワークショップ アイマスクを着けての ブラインド卓球・音楽・歩行練習など 昼食は災害用非常食をアイマスクを着用して食べてみる。 午後、講師講演・意見交換会	
第2回	11月	暗闇防災訓練の実施	会場未定（清水区内の体育館等を想定）
		視覚障害者による誘導の避難訓練、アイマスクバケツリレーなど独自の企画 プラス一般に行われている防災訓練	
第3回	1月	シンポジウム	（次年度に繋げるため、実際の災害時における実効性の為の問題提起）
		会場：清水は一とびあ6階にて	
27年			
7月上旬		契約締結	
7月中旬		実行委員会（企画打ち合わせ会議） 障害者福祉課との詳細の打ち合わせ 視覚障害者団体との調整打ち合わせ 会場決定 告知チラシ・案内作製配布 ボランティア募集	
8月		実行委員会（事前準備：会場確認・物・人の配置等）	
9月		講演会・ワークショップの開催	（は一とびあ清水：対象70名）
		終了後実行委員会による反省会	
10月		実行委員会（暗闇防災訓練実施の詳細打ち合わせ） 担当関連団体、行政との詳細確認	
11月		暗闇防災訓練の実施	
		終了後実行委員会による反省会	
12月		実行委員会（シンポジウム詳細打ち合わせ）	
28年			
1月		シンポジウム実施	
		終了後実行委員会による反省会	
3月		報告書の作成	

5 実施体制及び主要スタッフの経歴

全体総括	森美佐枝	代表	視覚障害・発達障害の方達と自転車・音楽を通した街づくりを实践
防災	大石学 中西雅士 千代幸嗣 山本寿之		清水災害ボランティアネットワーク代表 興津災害ボランティアネットワーク 日本赤十字防災ボランティア 復幸やらざあ駿河
講師・指導	綱川泰典 服部こうじ		全盲フルート奏者、ダイアログ・インザ・ダークのスタッフの経験あり。暗闇での心のケアの音楽を担当していた。 全盲ギタリスト 視覚障害サポートの方々の訓練講師
障害者ケア	窪田弘枝 平井利明		社会福祉協議会勤務高齢者とのS型指導員を経て 静岡市保健所精神保健福祉課勤務 静岡福祉大学教授
地域	高橋英俊 西ヶ谷達		僧侶、地域コミュニティーとしての寺のあり方を模索。コンサート、ヨガ教室など開催し地域とのコラボを实施。避難場所としての寺とは・・・ 地域コンサルタント・元静岡商工会議所勤務

6 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績、2年間継続することの効果など）

桜の架け橋会は、視覚障害、発達障害の方々と一緒に自転車・音楽をキーワードにしてまちづくり活動を行ってきました。

視覚障害のプロの音楽家2人による発達障害の子ども達の音楽指導と、そのサポートの活動からスタートをし、風を感じて自転車に乗ってみたいと言い出した全盲音楽家の為に二人乗り自転車タンデム自転車の購入と、普及の活動をしてきました。

視覚障害の二人がいつも言っています。「僕らは眼が見えないだけ、それだけの事。」

「時々目をつむってごらん。耳を通して、肌の感覚でそしていろんな方法で見えない物が見えてくるから」「僕らは映画もテレビも見るし、絵画展にも行く。見えるんだよ。」

そんな彼らからの提案。僕らは普通です。厄介者と思われる事もあるのが残念。役に立てる事なら喜んで協力します。避難訓練ですか、やりましょう。暗闇の中では声を掛け合い助けあわないと何もできない。みんなすぐに仲良くなれます。暗闇なら僕らがアテンドできる。

視覚障害者自らの提案企画です。

関西の住宅メーカーはダイアログ・インザ・ダーク（DID）を活用した、震災を考慮した対応イベントを実施しています。阪神の震災では DID のアテンド（視覚障害のかた）さんがご家族を暗闇の家の中で精神的に支え、具体的に避難行動のサポートをした実績があります。

当会メンバーの綱川は、日本 DID 本部のスタッフとして音楽部門で活躍をしています。

大石学をはじめとする災害ボランティアたち。窪田弘枝や平井教授は障害者対応のプロ。お寺の高橋和尚、西ヶ谷地域コンサル、服部と綱川の視覚障害者当人とその道のプロが集まっています。そして当会会員は地域住民に加え国土交通省・県・市の職員も参加されています。実際の災害を踏まえた訓練が可能です。

今回は、視覚障害、清水江尻地区に絞って実施いたしますが、回を重ねるごとに障害の種類、地域選定など内容を変えて、広く障害者と地域、行政を結び付ける取り組みをしていく事が出来ると思います。

協働パイロット事業 (H27) 見積書

団体名: さくらの架け橋会

障害者が主役の防災訓練

項目	金額	説明
会場費 案内看板等	50,000	暗闇避難訓練会場
講師謝礼 2名	40,000	講演会、WS シンポジウム講師
講師交通費	20,000	2名東京⇄清水
チラシ案内、デザイン印刷	15,000	500枚(点字案内も)
報告書作成	10,000	
避難訓練設備、消耗品	20,000	試食非常食・アイマスク等
ボランティア保険	15,000	
諸経費	15,000	
小計 A	185,000	
消費税 B = A × 0.08	14,800	
合計 A + B	199,800	

◎実費弁償契約の希望の有無 有 無

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金額	主な用途